

右我流にてはなく、利休流にて候間、能々守可申事、總じて人の分別も、静とおもへば油断になり、滯らぬと思へばせはしくなり候て、各生付得方になり候、又随分義理明白なる様にと、思へ共、欲あかにけがれ安候、又親主の恩を始、朋輩家人共の恩も、預り候事多候處に、其恩を可報と思ふ心なく、終に神佛の罰をかふむり候、然者右三箇條朝夕湯水の上にて、能々分別候爲書付置候也、

慶長四年正月日

如水

〔喫茶餘録下〕遠州宗甫居士壁書

それ茶の湯の道とても外にはなく、君父に忠孝をつくし、家々の業を懈怠せず、殊に朋友のまじはりをうしなふことなかれ、春はかすみ、夏は青葉がくれのほと、ぎす、秋はいと、さびしさまざるゆふべの空、冬は雪の曉、いづれも茶の湯は風情ぞかし、道具とてもさしてよすべからず、めづらしき名物とても、そのむかしはあたらし、只家に久しくつたはりたる道具こそ名物ぞかし、古きとても形いやしきは用ひず、新しきとてもかたちよろしきはすつべからず、數多き事うらやむべからず、すくなきをいとはず、一品の道具なりとも、いくたびもてはやしてこそ、末々子孫に傳はる道もあるべ、けれ、一飯を進むとても、志うすきは、早瀬の鮎、水底の鯉とても味あるべからず、まがきの露、山路は蔦かづら、明暮こぬ人をまつ、葉風の釜のにゑおと、絶る事なかるべし、

〔甲子夜話九十四〕松月齋○松平 齊 匡 茶令

一茶の道は質素を主とし、風雅を客としまご、ろのもてなしあらば、萬のみやび盡したるにも増りぬべし、

一おのれ好む所とて、わりなく人に勧め、己れがくむ流もて、よそ人をそしる、いづれもあさましかるべし、